

月刊



平成25年3月1日発行 通巻206号
 昭和40年8月21日第3種郵便物認可
 発行/公益社団法人 滋賀県建築士会
 〒520-0801
 滋賀県大津市におの浜1-1-18 建設会館 3F
 TEL077-522-1615 / FAX077-523-1602

公益社団法人 滋賀県建築士会

URL : <http://www.kentikushikai.jp/> mail : shiga-sa@mx.bw.dream.jp

湖国が滋る・水と緑の街づくり

CONTENTS

- ・千葉 實名誉会長を偲んで…………… 2
- ・大津・湖西滋賀地区委員会
平成24年度
建築フォーラム開催案内…………… 3
- ・青年委員会
第9回ゴルフコンペ開催のお知らせ
- ・まちづくり委員会
第4回「未来の家」「未来のまち」
子ども立体作品展、第6回「建築士」
フェスティバル報告…………… 4
- ・アイ・湖国びと…………… 5
- ・地区だより…………… 6
湖北地区
- ・大津市からのお知らせ
大津市風致地区内における建築等の
規制に関する条例の内容について
- ・3月の暦
- ・足のむくま 近江再発見 第6回



長浜城（長浜市）

戦国時代末期に豊臣秀吉が城主として過ごした長浜城は、江戸時代前期に廃城になり、遺構は彦根城や大通寺に移築された。その跡には、僅かな石垣と井戸だけが残されていたが、昭和58年（1983）に安土桃山時代の城郭を模して「昭和新城」を復元された。内部は歴史博物館として公開されている。また、その城跡に明治42年作られたのが豊公園。長浜城主だった豊太閤・豊臣秀吉にちなんで「豊公園」と名付けられた。

長浜城歴史博物館を囲むように桜の木が植えられており、春にはソメイヨシノを中心に約800本の桜が一斉に咲き誇り、「日本さくら名所100選」に選ばれている。

（滋賀県観光情報ホームページより）

千葉 實名誉会長を偲んで

それは、まったく突然の訃報で、にわかには、信じられませんでした。
私が、その訃報をお聞きした状況とギャップもあったかもしれません。



千葉實名誉会長とは、海藤義夫会長時代、私が、滋賀県建築士会 青年部会 運営委員長を
拝命させて頂いている時に、担当副会長として、御指導賜り、以来、今日まで、20年以上の
永きにわたり、薫陶を賜り、導いて頂いた恩人であります。

千葉實名誉会長は、長年 建築関連団体の要職にあり、とりわけ滋賀県建築士会においては、
昭和50年から平成19年の永きにわたり理事を努められ、その間昭和62年から平成6年までの7年間、海藤義夫会長
の基、副会長として、会長を日々献身的に支えられ、平成7年からは、その後を受け、滋賀県建築士会第六代会長
として12年間、滋賀県建築士会発展の為、多大なるご尽力をされてまいりました。

とりわけ、若き日の故人は、若き建築士のまとめ役として、つとに高く評価され、信頼とその徳望は衆人の認めるところ
であり、昭和49年滋賀県建築士会青年部会設立においては、多大な努力をされ、設立後は、初代青年部会運営委
員長として、滋賀県建築士会の為、若き青年建築士の為にと、社会貢献を実践され、大いに活躍されました。

また、昭和60年に滋賀県で開催された、日本建築士会連合会全国大会では寝食を忘れて取組まれ、大会の成功に寄
与されたことは、周知の事実であります。

そして、会長就任後は、委員会組織活性化や、特に、財政基盤の健全化の取組みにおいて大きな成果を残されました。
その間設立50周年記念事業においても、立派に成功に導かれ、今日の滋賀県建築士会の礎を築いて頂きました。

そして、千葉實名誉会長の後にと、長らく固辞致しておりましたが、最後は、あの温かい包み込む様な笑顔で、「たの
む…」と言われたら、もう何も言えず、会長をお受させて頂きました。

私が、初めて全国会長会議へ出席する時、わざわざ東京の「アジュール竹芝」の会場まで、お奥様ご同伴で来て頂
き、なにも分らない私を、連合会の会長や執行部の方々に、各単会の馴染みの会長さんへ連れて回って下さり、「次
の滋賀の会長ですよ…若いけど、よろしく…」といちいち頭を下げた事が、今でも忘れられず、若いどのこ
うの理屈を言っていた私が、恥ずかしくなり、こんな素晴らしい人柄の千葉實名誉会長の後を継がさせて頂いて、本当に
良かったと思い、滋賀県建築士会の為に、頑張らねばと意を強く致しました。

その日の列れ際に、名誉会長が「山本もちょこちょこと、たったひとりで、新幹線に乗って東京へ来ることもあるやろ、『な
んでこんな事しているのやろ…』と思うかもしれませんが、それも、また、その内、良思えてくる。だから、辛抱してやってく
れ…」とおっしゃられました。

未だ、その境地に至りませんが、いろいろとご指導頂き、お支え賜っていた事に、心より感謝し、お礼を申し上げるしだ
いであります。

この後は、千葉實名誉会長が、いつも気をかけておられた、滋賀県建築士会を役職員一丸となって、さらに発展させら
れる様、尽力致しますので、どうかこれからも、深い温い心で、見守って頂きたく存じます。

生前のご尽力に対し、深い感謝の心を捧げます。

合 掌

滋賀県建築士会 会長 山本 勝義



再募集

日時：平成25年3月22日(金) 13:30受付開始 14:00~16:30

場所：大津市民文化会館 多目的ホール (大津市御陵町2番3号 TEL 522-7165)

※会場は、駐車場が少ないので、公共交通機関(電車、バス)をご利用ください。

定員：100名 (FAXによる申し込み先着順とし、定員になり次第締切ります。3/18最終締切)

参加費：無料

内容：(1)開会あいさつ (14:00~)

(公社)滋賀県建築士会大津地区委員長
 大津市都市計画部建築指導課長

(2)フォーラムの内容 (14:10~16:20)

(予定。変更の場合あり)

- ・省エネ基準の見直しについて
- ・低炭素建築物の認定制度について

(休憩 10分)

- ・既存不適格建築物の増築、容積率の緩和等について
- ・大津市開発事業の方法及び基準に関する条例について
- ・その他、質疑応答

講師
 大津市都市計画部建築指導課
 大津市都市計画部建築指導課

大津市都市計画部建築指導課
 大津市都市計画部開発調整課

(3)閉会あいさつ (16:20~16:30)

(公社)滋賀県建築士会湖西滋賀地区委員長

平成24年度 建築フォーラム 参加申込用紙

会員/会員外	お名前	ご住所	当日連絡先(携帯TEL)	FAXまたはメールアドレス
会 員・会員外				

お申し込みはFAXにて… 公益社団法人 滋賀県建築士会 事務局 (FAX.077-523-1602) (お問い合わせは… TEL.077-522-1615)

青年委員会

第9回ゴルフコンペ開催のお知らせ

青年委員会では第9回のゴルフコンペ開催をお知らせいたします。今回はよくある年度末の駆け込み開催を避け4月開催でお知らせすることになりました。2月、3月の忙しい時期から開放され、春満開のこの時期にゴルフでリフレッシュはいかがでしょうか。ゴルフコースも大変美しく気分爽快です。もちろん初心者の方、大歓迎です。またプレー終了後、表彰式、親睦も兼ねた懇親パーティーも準備しておりますので、みなさま、お誘いあわせの上、ふるって、ご参加いただきますよう、お待ちしております。

最後に担当部会の不手際によりご案内が1回のみとなりましたことお詫び申し上げます。

- 日 時：平成25年4月4日(木) 雨天決行
- 場 所：メイプルヒルズゴルフ倶楽部 甲賀市信楽町田代65 TEL：0748-82-3800
- 費 用：¥15,000程度 ● 募集人員：24名
- 参加申込：3月25日(月)までに下記申込欄のご記入の上、FAXもしくはご郵送にてご応募ください。

※ご参加の方には後日、詳細を送付いたします。

公益社団法人 滋賀県建築士会青年委員会 第9回ゴルフコンペ申込用紙

参加者お名前	住 所
生 年 月 日	所属地域会
参 考 H D	FAX番号

※後日詳細をご案内いたしますのでFAX番号の記載漏れにご注意ください。

公益社団法人 滋賀県建築士会 事務局 (FAX:077-523-1602 郵送の場合 大津市におの浜1-1-18)

第4回「未来の家」「未来のまち」子ども立体作品展、 第6回「建築士」フェスティバル報告

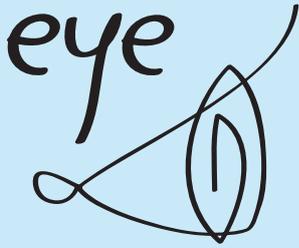
去る2月2、3日、イオンモール草津において、第4回「未来の家」「未来のまち」子ども立体作品展、第6回「建築士の日」フェスティバルを行いました。

2、3日の二日間にわたり、2階イオンホールで、子ども立体作品展を開催し、県内幼稚園25園、131点の作品を展示し、2000人余りの来場を数えました。

2日の土曜日には「建築士」フェスティバルを1階セントラルコートにて県内の工業高校生徒の作品展示、防災防火啓発、耐震診断・耐震改修の啓発、建築・住まいの相談会、積み木遊び広場、建築士会活動報告の展示を行い、広く建築士の役割をアピールできました。また、共催、後援頂いた各行政、県立工業高校の方々とも交流でき、一般の方々や、関連団体の方々に広く「建築士会」をアピールできる事業となりました。

この事業にかかわって頂いた皆様に感謝の意を表し、報告といたします。





— アイ・湖国びとの愛情視線 —

県立安曇川高校3年

第15回 伊庭卓弥さん 高尾卓矢さん 野崎裕貴さん

第三回 建築甲子園準優勝



いばたくや 伊庭卓弥さん(左) のぎきゆうき 野崎裕貴さん たかおたくや 高尾卓矢さん(右)

1994年高島市生まれ。県立安曇川高校建築デザイン系列の3年生。仲間で勝ち取った入賞に友情を深めた

2010年から始まった日本建築士会連合会が主催する「高校生の建築甲子園」で県立安曇川高校（高島市安曇川町西万木）の作品が準優勝した。初回の優勝に続き3年連続となる入賞に強豪校としての地位を固めつつある。

琵琶湖の漁業に外来魚を活用する仕組みを取り入れた施設の提案「外来魚。～新しい地域の暮らし～」は3年生男子3人で取り組んだ共同作品だ。伊庭くんは「課題である“地域の暮らし”を考えた時、真っ先に浮かんだのは琵琶湖。湖西に暮らす僕たちの身近な存在である琵琶湖を改めて考えてみることにしました」と振り返る。

調べて最初に突き当たったのは生態系の問題。外来魚が琵琶湖の固有種を減少させ、漁業に大きな影響を与えており、それに対し県が様々な対策を講じていることも知った。そんな現実を改善する新しい取り組み方を提案しようと各自の意見を出し合っては摺合せを繰り返し、構想を固めていっ

た。高尾君と野崎君は「意見が食い違うこともありましたが1人では気付けないこともあり、3人で作る心強さを感じました」。漁船が出入りする漁港と建物が一体になった施設で、1階部分が琵琶湖にせり出す舟屋のつくり。外来魚を調理する食育室、地域の人々が集える銭湯、県が実施する田んぼで固有種の稚魚を育てるゆりかご水田との連携など様々な要素を取り入れた計画となった。

製作は作業を分担して行った。細かい作業が好きな伊庭君が模型を担当。パソコンが得意な野崎君は図面や文章を作成。高尾君は調整役として両方の作業をサポートした。伊庭君は「舟屋の部分は特に力を入れました。図面を立体に起こすことでよりリアルに建物を把握することができ、実際に建った時は想像するより面白さを感じて夢中になりました」。高尾君は「雪深いマキノならではの気候を活用した雪室が気に入っています。屋根の傾斜を利用して地下に雪を貯蔵するシステムで、夏の空調や食料品の保存などに使います。環境に優しい今注目の自然エネルギーです」野崎君は「施設には漁師が暮らす居住空間が含まれています。独身から子どものいる家族まで家族構成の違いによって部屋の間取りを変えました」。

それぞれの思いを込めながら制作し、まとめるためには教諭の支えが欠かせなかった。作業の進め方、模型の作り方、図面の精査、文章の言葉づかいなど、アドバイスをもらいながら進めた。「賞を取ることができたのは指導して下さる先生方がいたからこそ。僕たち学生の取り組みは先生に支えられているのだと実感しました。3年間の高校生活の最後に大きな経験になりました。田舎で何も無いと思っていたけど、様々な暮らしの文化があって守ろうとしている取り組みがあることを知れたことも大きかった。故郷を自慢に思うようになりました。この提案に込めた思いを実現させられる大人になれるよう、これからもがんばっていききたい」と3人は声を揃えた。（取材：M. Y）



準優勝に輝いた「外来魚。～新しい地域の暮らし～」

湖北地区

新春家族ボーリング大会

日時：平成25年1月26日(土)

場所：長浜スプリングレーンズ

毎年恒例の新春家族ボーリング大会を長浜スプリングレーンズにて行いました。賛助会会員の家族も含め44名という多くの方に参加して頂きました。参加家族和気あいあいの中ゲー

ムも進み、ゲーム終了後、懇親会と表彰式をおこないました。表彰式では、発表のたびに歓声があがり、大変盛り上がりました。

成績は優勝は村田徹也さん、準優勝は田川雄大さんでした。



大津市からのお知らせ

大津市風致地区内における建築等の規制に関する条例の内容について

平素は大津市の都市計画ならびに景観行政に多大なる御理解と御協力を賜り、御礼を申し上げます。

平成24年4月1日に、大津市内の風致地区に適用される条例を県の条例から市の条例へと変更いたしました。

従前の県条例では、建築物の新築および増改築を行う場合、それに係る部分の床面積の合計が10平方メートル以下であり、高さが8メートル以下のものについては許可申請不要でありましたが、市条例では、以下の場合については許可申請の対象となる上に、許可基準に抵触することから、原則として行為を行うことができなくなっておりますのでご注意ください。

- ① 建ぺい率が10分の4を超える場合
- ② 外壁又はこれに代わる柱の面から敷地の境界線までの距離が道路に面する部分にあつては2メートル、その他の部分にあつては1メートル未満となる場合

3月の暦

1	金	友引		12	火	友引	地域貢献活動センター 委員会	23	土	先勝	
2	土	先負	梶原 研修	13	水	先負	理事会	24	日	友引	
3	日	仏滅	梶原 研修	14	木	仏滅		25	月	先負	
4	月	大安	青年委員会	15	金	大安		26	火	仏滅	
5	火	赤口		16	土	赤口		27	水	大安	
6	水	先勝	四役会・諮問会議	17	日	先勝		28	木	赤口	
7	木	友引	機関誌「家」特別委員会	18	月	友引		29	金	先勝	
8	金	先負	構築連携特別委員会	19	火	先負		30	土	友引	
9	土	仏滅	全国青年委員長会議	20	水	仏滅		31	日	先負	
10	日	大安	全国青年委員長会議	21	木	大安					
11	月	赤口		22	金	赤口	建築フォーラム				

足のむくま 近江再発見

よしだ さくへい 豊公園・吉田作平

長浜市民はもとより、湖北では吉田豊を知らなくとも文泉堂といえ知らないものはない。文泉堂は今の豊氏の4代前の吉田作平が明治19年(1886)23歳のときの創業による。江戸時代は「ぜに作」の屋号による両替所を営んでおり、古くからの実力経済人だが、作平は先見の明があるというのか、家業を切り換えて新聞販売、書籍、文房具の文泉堂を創業した。

同社は今から25年前の昭和61年、創立100周年で長浜商議所から表彰されたが、実は4代前の吉田作平が長浜の文化産業の功労者であることが以外に知られていない。

彼は明治42年10月、10代目の長浜町長となって間もなく、その12月議会で長浜豊公園建設案を提案したが、「必要なし」と否決された。彼は長浜城の史跡を顕彰し、市民の憩いの場の必要性を説き翌43年3月議会で再提案し可決されている。さらには後の長浜高女(現北高)の前身である町立実科高女の創立をすすめ、大正12年(1923)長浜信用組合を設立し組合長に就任している。



(滋賀夕刊新聞社記事より抜粋)